

こんにちは、京都市青少年科学センター所長の瀬戸口烈司です。

私は長年「古生物学」を研究してきました。当センターの定例イベントとして、私の「サイエンス・トーク」というものを行っています。最近センターに展示してあります、ティラノサウルスの動態模型や恐竜の骨格標本等を使い「恐竜の生態」を取り上げてお話しているせいか、小さなお子さんには「恐竜の先生」として知られるようになってきました。

さて、この青少年科学センターは昭和44年(1969年)に、本市の科学教育・理科教育の中核(まさに「センター」)として、全国に先駆けて設立された教育施設です。下の写真をご覧ください。当センター設立の理念である「科学者精神」と刻銘されている石碑が、1階入口横の植込みの中にあります。一般来館の方の入口はスロープをあがった2階になっていますので、なかなか眼に止まらずご存知の方は少ないと思います。



京都市青少年科学センター所長
せとぐちたけし
瀬戸口烈司



科学者精神とは「科学の方法の理解とそれを活用する心構えの体得」のことを言います。難しいですね。でも子どもたちを理科好きにし、この科学者精神を養うための最短の道は、子どもたちが、知識を教え与えられることよりも、野外や実験室で実物に触れて好奇心を持ち、つづいてはその科学的内容に触れ、五感や体を使って自分で、疑問を見つけ、かつ考えることにあります。

そこで、当センターでは、開館以来、京都市立小・中学校のすべての児童・生徒が来所し、学校では学べない観察・実験を行う「センター学習」や、学校の先生の観察・実験研修を行うとともに、展示場やプラネタリウム、屋外園は、子どもたちや市民の方の科学・理科に対する興味関心の喚起や探究心を満たす「科学館」として、長年親しまれてきました。

その科学センターも、2019年(平成31年)には開設50年を迎えます。新しい世代の子どもたちや二世帯・三世帯にわたり親子や家族連れで来られる方々に、改めて科学や理科の面白さを再発見していただけるよう、センター学習で培った教材・教具やソフトを活かした観察・実験イベントの多様化を図るとともに、京都の先端科学企業の協力による企業特別展の開催や、大型展示品の更新を含めた展示場のリニューアルなどを行い、身近で、より魅力のある学びの場として、より多くの方々に来ていただくことを願っています。

瀬戸口所長 プロフィール

昭和17年(1942年)5月22日 京都市伏見区生まれ
平成5年 京都大学理学部地質学鉱物学科教授
同11～15年 京都大学総合博物館館長兼任
同12年 青少年科学センター学術顧問
同22年10月～ 同 所長
現在 京都大学名誉教授